創立70周年
静岡県検査技師会史

一般社団法人 静岡県臨床衛生検査技師会

目　　次

序　　文 ---------- 1
一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会会長　髙林　保行

祝　　辞 ---------- 2
静岡県健康福祉部部長　八木　敏裕
一般社団法人静岡県医師会会長　紀平　幸一
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会会長　宮島　喜文
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会中部圏支部長　南部　重一

創立70周年記念式典 ---------- 6

静岡県臨床衛生検査技師会のあゆみ ---------- 7

1．歴代会長の紹介 ---------- 7
2．歴代会長挨拶 ---------- 8
第15代会長　伊藤　喜章
第16代会長　大石　和伸

3．創立65年以降の主な活動記録 ---------- 10
各部局の活動について　組織調査部長　深澤　邦俊
学術部長　羽切　政仁
渉外広報部長　鈴木　秀明
平成30年以降の活動・イベント
中部圏医学検査学会
静岡県医学検査学会
学術部門研修会等の活動

特別寄稿
一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会名誉会員　横地　常広
静岡県臨床検査精度管理委員会統括　清水　憲雄
磐田市立総合病院臨床検査技術科　大井　直樹

4．表　　彰 ---------- 32
厚生労働大臣賞受章
県知事表彰受章者
中部圏関連表彰受章者
静臨技　その他関連表彰受章者

5．静岡県臨床衛生検査技師会資料 ---------- 34
歴代役員一覧
組織図

編集後記 ---------- 36

静岡県臨床衛生検査技師会
創立70周年記念誌刊行のご挨拶

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会
会　長　髙　林　保　行

この度、静岡県臨床衛生検査技師会創立70周年記念事業の一環としてこの「創立70周年記念誌」を刊行いたします。

当会は、昭和27年５月に医療や公衆衛生などの知識と技術の向上を図ることを目的に衛生研究所や保健所で検査に従事していた技術者の方々の熱意により技術者会が設立されたことから始まり、昭和28年１月10日に日本衛生検査技術者会静岡県支部結成式を静岡県衛生検査所で挙行し、事務所を同所に置くことにより実働しました。翌年、日本衛生検査協会静岡県支部と改称され、当初は、県中部の県衛生研究所を拠点とした日本衛生検査技術者会の支部的な活動が主でありましたが、その後、地域活動の重要性が高まり、県内を東部、中部、西部の３ブロックに分けて各地区できめ細かな勉強会や交流が行われ、現在の静臨技の支部となるまで活動の主要な役割を担ってきました。昭和36年には静岡県衛生検査技師会と改称し、昭和52年には会名を静岡県臨床衛生検査技師会となりました。平成４年４月４日には社団法人取得に向けての努力が実を結び「社団法人静岡県臨床衛生検査技師会」となり、平成25年４月１日からは「一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会」として現在に至っております。発足当時54名の会員数も70年の歳月が経過して1,900名を超える大きな組織に成長いたしました。こうして創立記念を迎えられるのは歴代の会長をはじめ役員の皆様や関係団体の多大なご支援とご協力を賜りましたおかげであり、これまで静臨技に携わってきた多くの方々に感謝を申し上げます。

70年という節目を迎えるにあたり、改めて技師会の歴史と役割を振り返り、その重要性を再認識するとともに、静岡県民の健康増進、及び公衆衛生の向上に寄与することを目的として、会員の職能意識を高めて、知識と技術の学術向上事業、会員の連携を図る組織強化事業、本会の活動を広報する事業の３つの主軸の活動について、一丸となって取り組んでいくことが必要であると考えております。さらなる発展と進化を目指し、情勢や将来の方向性を見極めつつ、会員の生涯教育を通じて日々精進してまいります。今後も、静岡県臨床衛生検査技師会の活動におきまして、行政及び関係団体の皆様の一層のご指導とご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

結びに、本書の編集にご尽力を賜りました諸先輩をはじめ多くの方々に心より感謝を申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして刊行の挨拶とさせていただきます。

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会 創立70周年記念誌祝辞

静岡県健康福祉部
部　長　八　木　敏　裕

このたび一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会が創立70周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

県では、令和２年度から臨床検査外部精度管理の業務委託を貴会にお願いしております。本年度は、臨床化学・免疫血清検査ほか４部門で県内125に上る検査機関に参加いただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

臨床検査は、適切な診断・治療を行うために必要な客観的データを正確かつ迅速に、医療現場に提供することが目的であり、まさに医療の根幹をなすものであります。近年、医療の高度化・専門化やチーム医療の普及に伴い、検査内容も高度化・複雑化しております。また、令和３年には臨床検査技師等に関する法律が改正され、新たに10項目の業務が追加されました。このように臨床検査を取り巻く環境が変化する中、貴会におかれましては、県内の各検査施設の検査水準の向上や精度の標準化を図るため、日々臨床検査の精度管理に取り組まれており、本県医療の質の向上に多大な貢献を頂いておりますことに、改めて厚くお礼申し上げます。

本県といたしましては、医療提供体制の確保・充実を図り、県民の誰もが幸せを実感できる社会の実現に向けて取り組んでまいりますので、貴会におかれましても引き続き、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

静岡県臨床衛生検査技師会 創立70周年に寄せて

一般社団法人静岡県医師会
会　長　紀　平　幸　一

この度、一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会が創立70周年を迎えられましたことに静岡県医師会を代表して心より御祝を申し上げます。

これまで70年の永きにわたり、会を支えてこられました、歴代の会長、役員の皆様の御努力に敬意を表しますとともに、髙林会長をはじめとする関係者の皆様の御尽力に重ねて敬意を表する次第です。静岡県臨床衛生検査技師会の皆様方には、日頃から、私ども医師会とともに、医療の質の向上と安全の確保に取り組んでいただいておりますことに、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、貴会の歩んでこられた70年の間に医療を取り巻く環境は大きな変化を遂げております。特に、少子高齢化の進展は、世界に類を見ないスピードで進んでおり、65歳以上の高齢者人口がピークを迎える2042年には、日本全体で3,935万人、全体の36％が高齢者になると予想されています。静岡県でも高齢化率が30.4％と過去最高を更新続けております。少子高齢化は、将来の地域医療を担う人材の確保や社会保障費の増大など、様々な問題を引き起こします。医療界は、それらの難問に対して、専門職がそれぞれの特性を生かしつつ、連携協働して効果的・効率的に質の高い医療を提供していくことで対処していかなければなりません。臨床検査技師の皆様には、その専門性を活かし、医療現場の一員として、さらに活躍されることを期待しております。

一方で、近年の医学・医療の発展も目覚ましく、国策となっている医療DXの推進により、より迅速で精度の高い臨床検査技術の進歩が期待されます。既に、私たち医師は日常診療において臨床検査の情報なしに、患者の状態や治療効果を正確に把握することはできません。臨床医にとっては、精度の高い検査結果はなくてはならないものであり、自信をもって患者と向き合うことができるためには必須であります。これからも、国民の命と健康を守り、また医療に対する信頼を維持していくために、臨床検査に携わられる皆様方が、技術と知識の習得に努められ、良質な医療の向上に寄与されることを、医師会を預かる者として大いに期待しております。

医療の世界は、これからも大きな変化の波にさらされることと思います。貴会は70周年を迎えられましたが、今後も、私たち医師会とともに、数多の荒波を乗り越え、さらに歴史を重ね、地域医療へ貢献されていくことを確信しております。

最後に、貴会の今後の御発展並びに会員の皆様方の御健勝を心より祈念いたしまして、御祝の言葉といたします。

創立70周年記念誌発刊に寄せて

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長　宮　島　喜　文

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会が創立70周年を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。

貴会は昭和27年に静岡県衛生検査技術者会として発足し、今日を迎えられました。この長き道程の中で、静岡県における唯一の臨床検査技師の学術・職能団体として、組織基盤を確立し、会の発展にご尽力いただきました先輩諸氏の皆様のご労苦に対しまして、深く敬意を表します。

さて、貴会は学術研修事業を通じて会員の資質向上を図るとともに、県など行政や医療団体と連携を深め、地域住民を対象にした公益活動を通じて、県民の健康増進に寄与され、私ども、日本臨床衛生検査技師会の生涯教育や臨床検査の普及・啓発事業にも積極的に取り組んでこられました。昭和56年には、桑原勇一学会長の下、第30回日本医学検査学会を担当県として静岡市で、平成30年には山口浩司学会長の下、第67回日本医学検査学会を浜松市で開催されました。また、近年では、コロナ禍の令和４年に須田達也学会長の下、第60回日臨技中部圏支部　医学検査学会が沼津市で開催され、いずれも成功裏に終えることが出来ました。

改めて、髙林保行会長を始め、関係各位、会員のご協力に厚く御礼を申し上げます。

私は、日本臨床衛生検査技師会会長に就任して、過去の歴史や実績におごることなく、「未来を切り開く日臨技を目指して」新たな一歩となるよう役員一同誠心誠意、会務の遂行に努めてまいりました。

その結果、会員数はこの10年間で約２万人増加し、本年６月末において目標としていた７万人会員を達成することができました。また、平成26年には、臨床検査技師の業務に、診療の補助として５項目の検体採取が追加され、平成30年には、医療法等の一部を改正する法律が成立し、「精度管理」が初めて明記され、医療機関等が実施する検体検査に適用されることになり、臨床検査技師は、病院等における精度管理責任者として改正医療法に併せて明記されました。

更に、令和３年には、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律が成立し、臨床検査技師へのタスク・シフト／シェアとして10行為が認められました。現在では厚生労働大臣指定講習会を開催しており、静岡県臨床衛生検査技師会においても「実技講習」を開催いただいております。

現在、我が国では少子高齢化が急速に進んでおり、2040年には社会経済活動が低下し、医療介護の需要も減少すると予測されています。

急速に進む技術革新は近い将来、医療介護の分野のうち、臨床検査の領域でもAI（人口知能）やロボットなどの活用が促進され、大きく変貌を遂げていくものと思われます。

日本臨床衛生検査技師会としては、2040年を見据え、これからの臨床検査技師が進むべき道を開くため、第二次未来構想を策定し、新たなステージに向けて活動に入りました。

今後とも、静岡県臨床衛生検査技師会の会員の皆さまを始め、関係各位の皆さまの一層のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、貴会が地域社会において、更に信頼される医療団体として、益々発展されますことと、会員・賛助会員の皆様がご健勝でご活躍されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人静岡県臨床検査技師会 創立70周年記念にあたって

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
中部圏支部長　南　部　重　一

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会が創立70周年を迎えらえれ、ここに記念誌を発刊されますことを心よりお慶び申し上げます。

これまで臨床検査技師の制度・身分の確保及び学術振興・技術の研鑽ならびに会務運営に尽力されました先輩方のご努力に敬意を表します。また、この記念誌発刊を契機に、静臨技会員の皆様の団結がより深まり、今後の飛躍につなげていただきますことを大いに期待します。

パンデミックを起こした新型コロナウイルス感染症では、検体採取、ワクチン接種、PCR検査で臨床検査技師の重要性と存在感は一般の方々により認識されるようになりました。しかしながらこの間、研修会や公益活動が中止や延期となり、計画通りにいかないことが多々ありました。令和５年５月８日以降、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、５類感染症となり、支部学会ならびに研修会も現地開催へと戻りつつありますが、この間に得た新たなWeb技術を取り入れた会議や学会・研修会が今後の主流となることは間違いありません。

日臨技中部圏支部の会員は約8,700名で、静臨技は1,900名を超える会員数であります。

多くの会員が所属する静臨技は中部圏の中心的な役割を担っており、支部の柱の１つと言えます。2022年10月には第60回中部圏支部医学検査学会が、静岡県沼津市で開催され多くの会員が久しぶりに参集し、成功裏に終了することができました。これも静臨技会員の皆様のご協力があってのことで、誠に感謝いたします。

現在、日臨技はタスクシフト推進のための事業や品質保証認証制度、臨地実習指導者講習会を展開するほか、組織強化に向けた改革の時期と位置付けています。引き続き中部圏支部各県が連携し、助け合いの精神で、共に切磋琢磨していきましょう。

最後になりますが、静岡県臨床衛生検査技師会が今後も末永く発展されますとともに、会員の皆様ならびに関係各位の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人 静岡県臨床衛生検査技師会
創立70周年記念式典　式 次 第

記念式典　14：00～

開会の辞	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会	副会長	鈴木秀明
式　辞	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会	会長	髙林保行
祝　辞	一般社団法人静岡県医師会	会長	紀平幸一 様
	静岡県健康福祉部	部長　代理	青山秀徳 様
	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会	会長	宮島喜文 様
	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会	中部圏支部長	
	一般社団法人富山県臨床検査技師会	会長	南部重一 様
来賓紹介	公益社団法人愛知県臨床検査技師会	会長	藤田　孝 様
	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会理事		
	公益社団法人愛知県臨床検査技師会		菊地良介 様
	一般社団法人岐阜県臨床検査技師会	会長	棚村一彦 様
	一般社団法人三重県臨床検査技師会	会長	山本幸治 様
	一般社団法人石川県臨床衛生検査技師会	会長	長原三輝雄 様
名誉会員・歴代会長の紹介		名誉会員・第11代会長	泉　正和 様
		名誉会員・第12代会長	横地常広 様
		第13代会長	三宅和秀 様
		第15代会長	伊藤喜章 様
		第16代会長	大石和伸 様
祝電披露			
名誉会員表彰			
	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会	新名誉会員	横地常広 様
受賞者の紹介			
日本臨床衛生検査技師会功労賞受賞者			
	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会		大石和伸 様
厚生労働大臣表彰受賞者			
	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会		直田健太郎 様
	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会		清水憲雄 様
	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会		榛葉智之 様
感謝状贈呈	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会	賛助会員感謝状贈呈	
		代表	アルフレッサ株式会社 様
			中北薬品株式会社 様
			協和医科器械株式会社 様
閉会の辞	一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会	副会長	羽切政仁

静岡県臨床衛生検査技師会のあゆみ

1 歴代会長の紹介

初代会長	野口政輝	昭和28年度～昭和35年度
第2代会長	石川徳市	昭和36年度～昭和42年度
第3代会長	小林芳治郎	昭和43年度～昭和50年度
第4代会長	桒原勇一	昭和51年度～昭和57年度
第5代会長	岡山虎男	昭和58年度～平成3年度
第6代会長	宇佐美元章	平成4年度～平成5年度
第7代会長	福田文男	平成6年度～平成7年度
第8代会長	川越功	平成8年度～平成9年度
第9代会長	柴崎光三	平成10年度～平成15年度
第10代会長	髙木義弘	平成16年度～平成17年度
第11代会長	泉正和	平成18年度～平成21年度
第12代会長	横地常広	平成22年度～平成25年度
第13代会長	三宅和秀	平成26年度～平成27年度
第14代会長	山口浩司	平成28年度～平成29年度
第15代会長	伊藤喜章	平成30年度～平成31年度
第16代会長	大石和伸	令和2年度～令和3年度
第17代会長	髙林保行	令和4年度～

2 歴代会長挨拶

静岡県臨床衛生検査技師会の創立70周年記念誌の発刊に寄せて

第15代会長　**伊　藤　喜　章**

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会が創立70周年を迎えられたことに対して、衷心よりお慶び申し上げます。

また、創立70周年記念誌を発刊するにあたり、祝辞を寄稿させて頂ける機会を依頼されましたことに対しまして感謝と同時に、これまでの技師会を支え、発展を盛り立ててきた会員並びに役員の皆様の並々ならぬ努力に深甚なる敬意を表するものであります。

簡単に70年を語る事は出来ませんが、そのうちの12年ほどは自分も静臨技役員として頑張らせて頂きました、泉会長時代に常務理事２年、横地（２期）・三宅・山口会長時代に事務局長８年の任を任せられました。足かけ10年技師会に関わったので辞める予定でしたが、山口会長時代の浜松での全国学会（第67回日本医学検査学会）のかたづけなどもあり、15代会長に拝命され、病気入院などで迷惑をかけた事もありましたが、何とか任期をやり切らせて頂きました。思い出すのは実行委員長をやらせて頂いた全国学会は当初は開催場所を始め、日臨技の意向とは合致せず大変な部分が多くありましたが、交渉に交渉を重ね、実施できた事が印象深く残っています。自分の理事役員時代の当初は日臨技からの色々な依頼業務や日臨技中部圏支部医学検査学会と静岡県臨床検査精度管理調査報告会などがメインだった様に思いますが、時代は進み、新しい流れと変わっていきました、まずはなかなか大変だった法人化事業、他に好評を得て今も継続されている浜松医師会とのコラボの「減塩・低カロリープロジェクト」、協和医科さん主催の「メディメッセージ」、中部開催の「検査と健康展」などの健康関連の新イベントがはじまり、これに従来の「伊豆市健康福祉まつり」を加えると静岡県各支部の活躍の場が広がったように感じました。

コロナと言う想定外の化け物のおかげで臨床検査技師の存在が色々な場面でクローズアップされたのは良かったのですが、その裏で技師会運営は約４年間の試行錯誤の状態だったのではと思うと共に理事役員たちの苦労は想像がつきませんし『大変』の一言しか浮かびません。今後も何が起こるかわかりませんが、立ち止まることなく常に前に進む技師会運営を願っています。折しも記念誌の発行予定が令和６年２月だそうですが、その時には『日臨技会長選挙』も終わり新会長が決まっている筈なので、新しい日臨技会長が新しい斬新な方向性を示して頂けているのではと思っていますので静臨技も共に頑張ってください。更なる発展と飛躍を期待しています。

静岡県臨床衛生検査技師会の創立70周年記念誌の発刊に寄せて

第16代会長　大　石　和　伸

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会70周年記念誌の発刊にあたり、心からお祝い申し上げます。

昭和27年10月に50名ほどで「静岡県衛生検査技術者会」が創立され、現在では1944名（令和5年11月）もの会員数を誇る組織となり、令和6年4月には2,000名の大きな組織となると思われます。このような大きな組織に成長することができましたのも、静岡県臨床衛生検査技師会の発展にご尽力された諸先輩方と技師会運営を温かいご支援をいただいております会員の皆様ならびに関係諸団体各位の多大なご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

私の任期は、新型コロナウイルス感染による未曾有の災禍の真只中であり、多くの企画が中止の方向へと向かっておりました。令和5年5月、五類感染症となるまでの3年以上多くの集合型の企画は中止を余儀なくされました。その中で中止するのではなく開催する方法を静臨技の理事と検討し、Web会議サービスを導入しました。このシステムは東西に長い静岡県において現在も多くの会員から支持されて使い続けております。また、臨床衛生検査技師の名前を多くの方に知っていただいたPCR検査ですが、このPCR検査を多くの技師が行うことができるよう実技指導研修を行政と協力し研修会を実施することができました。今後も行政と協働し実施していくことで臨床検査技師の活躍の場が拡大していくものと思います。

「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進に関する検討会」においては、厚生労働省指定の講習会は47都道府県臨床検査技師会において実施となり、この講習会は臨床検査技師の国家資格の一部追加であるためすべての臨床検査技師が受講の対象となるため静岡県では東中西部の3会場で開催し多くの臨床検査技師が受講を修了されていますが、この講習会の準備も新型コロナ感染症の影響で遅れ技師会理事ならびに学術部門の役員に精神的な負担が強いられましたが、現在は順調に講習会の開催が実施され多くの臨床検査技師が受講を修了しております。そして、講習会受講後、多くの臨床検査技師が検査室から病棟や外来へ患者の近くでの業務に携わり活躍していくことが私たちの新たな道となっていくと思われます。

また、平成29年の「医療法の一部改正」から臨床検査技師の根幹にかかわる精度管理は精度保証へとますます重要性が増しました。静岡県臨床検査精度管理は、40回の長い歴史の中、令和2年度より静岡県から静岡県臨床衛生検査技師会が直接受託し直接実施する精度管理調査となり毎年参加施設も増加しこの精度管理調査の重要性が増しているところであります。ただ、この精度管理調査に携わって下さいってくださっている学術部門の役員の方には大きな負担となっているところでありますが、役員皆様のおかげで静岡県内の検査室の精度管理は保たれていると誇りを持っていただきたいと思っております。

この数年の医療に対するニーズの多様化やデジタル技術の進化は、臨床検査技師の業務にも大きく影響してきております。IoT、AI、ビックデータなどのデジタルデータから、DXや生成AIへとデジタル技術は想像していた以上の速さで進化してきています。当然のことながら私たちの業務にも活用されてきます。その結果、臨床検査技師の仕事が将来なくなる可能性があるとの調査結果があるとも聞きます。この状況を将来性がないと受け止めるのか、臨床検査技師（人間）であるからできる知識やスキルに目を向け私たちの活躍の場を検査室の中だけでなく患者さんの近くで活躍することができるチャンスと受け止めるのか。臨床検査技師の将来を憂うより、タスク・シフト／シェア、検査説明のできる検査技師、多職種連携やチーム医療などこれまでの事業を最大限活用し活躍し続ける職種になると信じております。

最後に、一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会のますますの発展と、会員の皆様のご活躍を祈念し記念誌発刊のお祝いとさせていただきます。

3 創立65年以降の主な活動

各部局活動について

組織調査部

組織調査部長　深　澤　邦　俊

組織調査部は会員の動向調査、意識の高揚を目的として活動しています。

毎月、会員の動向について異動表を作成し、理事で共有しています。2023年3月までは会報が紙媒体であったため会報に掲載していましたが、会報が電子化されたため個人情報保護の観点から掲載していません。年に一度の名簿作成、配布は継続しています。

表彰関係にも携わらせていただいております。

毎年、永年精励者表彰対象者の抽出、役員歴から静臨技功労賞の抽出、静岡県保健福祉部や日臨技からの推薦依頼への対応（支部長により各支部内で対象者の洗い出し）を行っています。公的団体の理事の実績等が推薦要件になることもあるため理事歴、役員歴などの把握も行っています。令和5年度の日臨技功労賞、厚生労働大臣表彰の推薦をさせていただきました。静岡県臨床衛生検査技師会名誉会員の推薦、登録も行いました。

静岡県臨床衛生検査技師会創立70周年にあたり静臨技を支えてくださっている日臨技、中部圏、静岡県、静岡県医師会、歴代会長、協賛企業の皆様への感謝の意を伝えるため70周年記念式典を執り行いました。

近年、台風等による大雨被害等が増加し、被災された会員のため日臨技の共済制度等の周知、日臨技において会費減免が認められた方の静臨技会費の減免などの対応もさせていただきました。被災された方たちへお見舞いを申し上げます。

今年度は若手技師の意識高揚を目的として、ここ数年コロナ禍で中止していたスタートアップ研修を計画しています。これからの静岡県臨床衛生検査技師会を支えていく若手技師の皆さんの参加を心待ちにしております。

技師会の業務は歴代の会長はじめOBの皆様、賛助会員の皆様、現会員の皆様の協力で成り立っています。これからもご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

学 術 部

学術部長　羽　切　政　仁

私が学術部長を就任しました令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、県学会をはじめ数多くの集合型研修会の企画が中止となり、会員の皆さまには多大なご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。

10月よりWeb会議システム（Cisco Webex）を静臨技に導入させていただき、静岡県臨床検査精度管理調査報告会ならびに各部門１回ですが研修会を、Web型にて何とか開催することができました。このWeb型での開催は手探り状態で非常に苦労しましたが、協力してくださった学術部門員ならびに精度管理WG実務委員、そしてご理解いただいた会員の皆様、関係者の皆様には、改めてお礼申し上げます。

また、令和２年度においては、今まで静岡県からの委託事業として静岡県医師会主導のもと静臨技が協力する形で実施されていました精度管理事業が、静臨技主体で実施していくことになった年でもありました。その精度管理事業でおこなわれる静岡県臨床検査精度管理調査は、全国的に行われる大規模精度管理調査を補完することを目的としており、特に地域サーベイの特色を生かして生試料を利用することでより実践的な調査となるよう心がけております。

令和３年度は、２年ぶりとなる県学会と学術部門による16回の研修会が全てWeb型で開催されました。なお、令和２年度のWeb型研修会については、試験的開始でしたので参加費を無料とさせていただきましたが、令和３年度からは口座振込により徴収させていただくことといたしました。また、Cisco Webexを拡張し、Web型研修会の視聴定員をMAX80名からMAX180名に増員いたしました。さらに静岡県臨床検査精度管理調査報告会においては、Web型開催から初となるオンデマンド開催へと進化させ、この開催形式は令和５年度の第40回静岡県臨床検査精度管理調査結果報告会まで継続されることとなります。

このように、Web型開催が研修会の主流となる一方で、令和３年度より全国で始まった「タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」については、実習形式のためWeb型では開催できないことから、臨床検査総合部門が中心となって開催を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して令和３年度の開催は中止とさせていただきました。

令和４年度に入りますと、新型コロナウイルスの感染状況に注意しながら、学術部門による16回の研修会中１回ですが、集合型にて開催できるようになりました。

特に10月には「第60回日臨技中部圏支部医学検査学会」を沼津市のプラサヴェルデにて盛大に開催することができました。学会部門別企画の準備に追われるなか、学術部門の活動に貢献してくださいました学術部門員の皆様には深く感謝申し上げます。

また、前年度中止となった「タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」も何とか８回開催することができ、令和５年度においても計画的に開催し、多くの静臨技会員が修了することができております。

以上、令和２年度以降の学術部の活動をご報告いたしました。

学術部は、今後も会員の皆様に満足していただけるような研修会・講習会の開催ならびに、会員施設の検体検査の精度維持向上を目的に精度管理事業の充実を、時代の背景に合わせながら企画してまいります。ですが、今後の課題としまして、それらを実行していただく学術部門員ならびに精度管理WG実務委員の継続的育成がございます。会員の皆様におかれましては、学術部門ならびに精度管理WGの活動にご理解いただき、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

渉外広報部

渉外広報部長　鈴　木　秀　明

はじめに

渉外広報部の活動は、県民に対する衛生意識思想の普及、啓発を図り、本会の啓蒙宣伝にとどまらず地域保健事業の広報にまで及んでいます。毎月の静臨技ニュース（会誌）発行、各種イベントへの参加協力、写真撮影、研修会・精度管理事業等のホームページへの掲載になります。2020年2月からは新型コロナ感染症拡大により研修会、学会、各種地域保健事業が中止又はWEB開催となり、2023年5月に新型インフルエンザ等感染症（2類）から5類感染症に移行するまでの間、静臨技ニュースが技師会関連の情報を確認するために大きな役割を果たしたと思います。技師会活動が新型コロナウイルス感染症発生前に戻るなかでも情報源としてますます役割は重要になると思います。会員の皆様のご協力を得て、さらに会員の皆様に密着した静臨技ニュースの発行、必要な記事がタイムリーにホームページに掲載されるようにしていきたいと思います。

静臨技ニュース

昭和59年5月に会報として第1号が発行され、平成5年2月第36号からは静岡県臨床衛生検査技師会会報静臨技ニュースと改名し現在まで続いています。会員数も平成15年4月1410名、平成30年4月1684名、令和5年9月では1942名と増加し、会員数の増加に合わせ内容も年々充実し数ページから多い時には25ページになります。第1号の発行より紙媒体での配布を行ってきましたが、電子メールが普及してきたこと、ホームページをより充実させるため令和5年4月第397号より紙媒体から電子メールでの配信に変更いたしました。会員の皆様には全員に対しメール配信を行い、賛助会員様には配信希望がありました会員様へメール配信を行います。また同号より静臨技ニュースの内容を変更し、会員の異動は個人情報保護のため掲載を中止いたしました。電子メール配信移行後もトラブルなく順調に発行が続いています。

静臨技ニュース掲載内容

トップページ：イベント案内、終了お知らせ、総会、学会開催案内等
会員投稿：テーマ自由で会員からの投稿を掲載
研修会：開催案内、終了報告を掲載
行事予定：当月含み3か月分掲載
会員の異動：令和5年4月第397号より掲載中止
その他：会員投稿募集、求人情報案内

ホームページ掲載内容

掲載記事：静臨技ニュース
学術部からの研修会案内
学会開催案内等

平成30年4月以降の静臨技における主な活動・イベント

平成30年度（2018）

4月7日	静臨技学術部門長会議	あざれあ
4月9日	平成29年度業務及び会計監査	静臨技事務所
4月10日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
5月11日	行列ができるスキルアップ研修会Part IX	アクトシティ浜松他
5月12日～13日	第67回日本医学検査学会	アクトシティ浜松他
5月15日	静岡県臨床検査精度管理調査	
6月2日	静臨技定時総会	中島屋グランドホテル
	静臨技創立65周年記念式典	中島屋グランドホテル
7月19日	静臨技役員候補者選考委員会	静臨技事務所
8月18日	平成30年度第1回ニューリーダー育成研修会	磐田市iプラザ
9月4日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
9月21日	静岡県標準化事業第20回東部地区意見交換会	三島商工会議所
10月27日	伊豆市社会福祉大会	修善寺生きいきプラザ
11月3日	検査と健康展	エスパルスドリームプラザ
11月23日～24日	メディメッセージ2018	アクトシティ浜松展示場
11月25日	減塩・低カロリープロジェクト2018	浜松市医師会館
11月25日	第35回静岡県臨床検査精度管理調査報告会	あざれあ
12月8日	第2回ニューリーダー育成研修会	あざれあ
12月9日	第3回ニューリーダー育成研修会	三島市民文化会館
1月12日～13日	多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会	あざれあ
1月16日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
2月8日	静岡県標準化事業第21回東部地区意見交換会	三島商工会議所
3月2日	スタートアップ研修会	あざれあ

令和元年度（2019）

4月6日	静臨技学術部門長会議	あざれあ
4月8日	平成30年度業務及び会計監査	静臨技事務所
4月10日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
5月14日	静岡県臨床検査精度管理調査	
6月8日	第8回静岡県医学検査学会・静臨技定時総会	あざれあ
9月4日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
9月27日	静岡県標準化事業第22回東部地区意見交換会	三島商工会議所
9月28日～29日	メディメッセージ2019	ツインメッセ静岡
10月26日	伊豆市社会福祉大会	修善寺生きいきプラザ
11月2日	検査と健康展	エスパルスドリームプラザ
11月24日	減塩・低カロリープロジェクト2019	浜松市医師会館

11月24日	ニューリーダー育成研修会	あざれあ
12月 8 日	第36回静岡県臨床検査精度管理調査報告会	あざれあ
12月14日～15日	ベッドサイド実践講習会	プラサヴェルデ
1月15日	静岡県医師会臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
1月23日	静臨技役員候補者選考委員会	静臨技事務所
1月26日	2019年度初級・職能開発講習会	磐田市立総合病院
2月 8 日	令和元年度スタートアップ研修会	あざれあ
2月22日	2019年度認知症対応力向上講習会	静臨技事務所
3月28日	静臨技学術部門長会議	あざれあ

令和２年度（2020）

4月 8 日	令和元年度業務及び会計監査	静臨技事務所
4月 8 日	静岡県臨床検査精度管理委員会	静岡県医師会仮事務所
5月12日	静岡県臨床検査精度管理調査	
6月13日	静臨技定時総会	あざれあ
9月 2 日	静岡県臨床検査精度管理委員会	あざれあ
10月 3 日	静臨技学術部門長会議	あざれあ
10月25日	新型コロナウイルスの検査に関するPCR実技研修会	静岡県環境衛生科学研究所
11月14日	Web型研修会作法講座「Webexでの研修会の受け方」	Web開催
11月29日	新型コロナウイルスの検査に関する検体採取実技研修会	静臨技事務所
1月24日	第37回静岡県臨床検査精度管理調査報告会	Web開催
2月10日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
2月20日	静臨技役員候補者選考委員会	Web開催

令和３年度（2021）

4月 7 日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
4月10日	令和２年度業務及び会計監査	静臨技事務所
4月10日	静臨技学術部門長会議	あざれあ
5月11日	静岡県臨床検査精度管理調査	
6月12日	第９回静岡県医学検査学会・静臨技定時総会	Web開催
9月 1 日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
12月12日	静臨技役員候補者選考委員会	Web開催
12月12日～26日	第38回静岡県臨床検査精度管理調査報告会	Web開催（オンデマンド）
1月12日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
3月 6 日	臨地実習指導者講習会	Web開催

令和４年度（2022）

４月６日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
４月９日	令和３年度業務及び会計監査	静臨技事務所
４月９日	静臨技学術部門長会議	Web開催
４月24日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	プラサヴェルデ
５月８日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	静岡県産業経済会館
５月10日	静岡県臨床検査精度管理調査	
５月22日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	静岡医療科学専門大学校
６月11日	静臨技定時総会	Web開催
８月28日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	プラサヴェルデ
９月７日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
９月11日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	静岡医療科学専門大学校
10月８日～９日	第60回日臨技中部圏支部医学検査学会	プラサヴェルデ
11月26日～27日	メディメッセージ2022	キラメッセぬまづ
11月27日	減塩・低カロリープロジェクト2022	浜松市医師会館
11月27日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	静岡県産業経済会館
12月１日～21日	第39回静岡県臨床検査精度管理調査報告会	オンデマンド開催
１月11日	静岡県臨床検査精度管理委員会	Web開催
１月29日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	静岡県産業経済会館
２月26日	タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習会	静岡医療科学専門大学校

日臨技中部圏支部医学検査学会

平成30年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第57回）

テーマ　一途一心　～臨床検査技師業務のパラダイムシフト～
会　期　平成30年11月24日・25日
会　場　三重県総合文化センター

支部シンポジウム

テーマ　臨床検査技師業務のパラダイムシフト
病棟業務　大隅　茜（聖隷三方原病院）
検体採取　田口　和敏（聖隷沼津病院）

部門別企画

臨床血液・輸血細胞治療部門
実践　～血液のこころをよみとろう～
大橋　勝春（三島総合病院）
北尾　時輝（静岡済生会総合病院）

臨床生理部門
緊急を要する心電図　—新しい視点より—　不整脈編
秋山健太郎（医療法人社団宏和会岡村記念病院）

生物化学部門
Reversed CPC　～検査値から病態を探る～
春口　公哉（磐田市立総合病院）

臨床微生物部門
どうしてる？　抗菌薬適正使用支援チーム
佐野　克典（沼津市立病院）

令和元年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第58回）

テーマ　「飛躍」　～“臨床検査”さらなる展開に向けて～
会　期　2019年10月12日・13日
会　場　長良川国際会議場・都ホテル岐阜長良川

支部シンポジウム

テーマ　臨床検査技師が関与する認定資格
～さらなる展開に向けて～
認定救急検査技師を取得して
栗原　五美（静岡赤十字病院）

部門別企画

臨床血液部門
業務で注意するポイント　～自動再検項目などロジック紹介～
渡邉　正博（浜松医療センター）

臨床微生物部門
品質マネジメントシステムにおける検体情報システムの役割
名倉　理教（浜松医科大学医学部付属病院）

臨床生理部門
全身の血管を極めよう！　下肢動脈　深澤　聡（聖隷三方原病院）

輸血細胞治療部門
各県の技師会教育活動・合同輸血療法委員会での活動報告
橋ヶ谷尚路（焼津市民病院）

病理細胞部門
医療法改正及び国際的な外部評価機構で要求される品質管理
田代　宏（静岡県立静岡がんセンター）

生物化学分析部門
RCPC症例から学ぶ検査データの見方，日常精度管理Q&A
春口　公哉（磐田市立総合病院）

令和３年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第59回）

テーマ　「harmony」～次世代へ進む検査　繋がる検査～
会　期　2021年９月25日～10月24日
WEB開催（オンデマンド配信）

支部シンポジウム
病棟業務の普及に向けて　長谷川祥子（聖隷三方原病院）

学術部門企画
臨床血液部門
静岡県の取り組み　大橋　勝春（三島総合病院）

臨床生理部門
新型コロナウイルスにどこまで備えるべきか？
～感染対策における当院の現状と生理機能検査室の取り組み～
角越　信郎（磐田市立総合病院）

生物化学分析部門
EQAを受けるマナーと評価結果の使い方　新関　紀康（浜松医科大学医学部付属病院）
IQCを現場で行うべきマナーと活用方法　竹林　史織（浜松医科大学医学部付属病院）

病理細胞部門
包埋～薄切、HE標本作成の品質・精度管理　岩崎　朋弘（静岡県立総合病院）

臨床検査総合部門
AIを利用した検査室からの臨床支援－診療支援システムの取り組みと導入効果－
石原　晶
（聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院）

令和４年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第60回）

メインテーマ　「Go to the NEXT ONE!」　～ふじのくにに集い　今と未来を考える～
会　期　　2022年10月８日～９日
会　場　　静岡県総合コンベンション施設　プラサヴェルデ（静岡県沼津市）

学会長　　須田　達也（裾野赤十字病院）
実行委員長　羽切　政仁（聖隷沼津病院）
事務局長　　坂根　潤一（静岡県立総合病院）
会　計　　齋藤　晴義（聖隷予防検診センター）

特別講演Ⅰ　『NEXT ONE!　これからの感染症学と検査室への期待』
静岡県立静岡がんセンター　感染症内科部長　　倉井　華子

特別講演Ⅱ　『NEXT ONE!　これからの臨床検査と臨床検査技師への期待』
浜松医科大学医学部　臨床検査医学教授　　前川　真人

基調講演　『人口減少社会の到来と臨床検査技師』
日本臨床衛生検査技師会　代表理事　会長　　宮島　喜文

日臨技企画　『タスク・シフト／シェアにおいて臨床検査技師の果たす役割について』
日本臨床衛生検査技師会　代表理事　副会長　　丸田　秀夫

シンポジウム
支部シンポジウム
『夢を語ろう　～NEXT ONE!　“次の”検査室に向けて～』
司　会　　南部　重一（日本臨床衛生検査技師会中部圏支部長）
須田　達也（令和４年度日臨技中部圏支部医学検査学会学会長）

1.『業務再構築を経た効率化実現と診療支援の拡充』
齊藤　　翠（藤田医科大学病院　臨床検査部）
2.『誇りと自信。そして努力』
日比　敏男（大垣市民病院）
3.『タスク・シフト／シェアをチャンスに変えて』
永田　　肇（市立砺波総合病院）
4.『人間力をアップし、病院、患者さんから必要とされる臨床検査技師を目指す』
福本　義輝（社会福祉法人恩賜財団済生会　松阪総合病院）
5.『私たちは“臨床”検査技師です』
坂下真紀子（特定医療法人社団勝木会　やわたメディカルセンター）
6.『保険事業における臨床検査技師のパーパスを模索する』
清水美千絵（社会福祉法人聖隷福祉事業団　聖隷健康診断センター）

特別企画
『中高生進学セミナー～臨床検査技師って知っていますか？～』
司　会　　原　　宜紀（JA静岡厚生連　清水厚生病院）
高山　拓也（静岡県立総合病院）
飯田ひかり（静岡済生会総合病院）
谷　　若奈（JA静岡厚生連　静岡厚生病院）

学術部門企画

1．臨床微生物部門
『パンデミックを乗り越えた先へ～取り組むべき検査室の課題とは～』
司　会　　原　　祐樹（日本赤十字愛知医療センター名古屋第二病院）
　　石田　和也（静岡済生会総合病院）

2．病理細胞部門
『どうする？どうなる？どうしたい？～病理検査技師の未来はこれから～』
司　会　　寺井　　孝（富山厚生農業協同組合連合会　高岡病院）
　　岩崎　朋弘（地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立こども病院）

3．生物化学分析部門
『検査室の品質保証を考える』
司　会　　村越　大輝（地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院）

4．臨床血液部門
『MDS（骨髄異形成症候群）の診断～WHO分類第４版を正しく理解しよう～』
司　会　　塩川　一樹（静岡市立清水病院）
　　杉澤きよ美（沼津市立病院）

5．臨床生理部門
『変革の時～今、求められるもの～』
司　会　　岩崎佐和子（富士市立中央病院）
　　杉山　　聡（一般財団法人富士脳障害研究所付属病院）

6．臨床検査総合部門
『臨床検査技師に対するタスク・シフト／シェアの推進～まったなし！先駆者から未来を考える～』
司　会　　大井　直樹（磐田市立総合病院）
　　高島麻倭子（一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院）

7．染色体遺伝子部門
『知識・技術向上のためのマイルストーン～認定試験を受けてみよう～』
司　会　　椎谷　裕之（静岡県立静岡がんセンター）

8．輸血細胞治療部門
『輸血検査の教育について』
司　会　　中野　翔太（静岡済生会総合病院）
　　富山　隆介（国立大学法人富山大学附属病院）

9．臨床一般部門
『一般検査における形態検査精度管理～技師間差を埋めるためにできること～』
司　会　　星　　雅人（藤田医科大学）
　　金崎　　悠（一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院）

一般演題

〈一　般〉

座　長　　静岡済生会総合病院　　粟原　直子
　　静岡県立総合病院　　萩原　風太

- 尿沈渣作製手技が尿沈渣結果値に与える影響について
一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院　　金崎　　悠
- 腎機能低下の傾向と今後の展開
聖隷健康サポートセンターShizuoka　　杉山　凜花
- 当院の日当直帯における穿刺液検査の現状と運用改善に向けた検討報告
掛川市袋井市病院企業団　中東遠総合医療センター　　鈴木　航平
- 尿沈渣中に見られたヘマトイジン結晶の一症例報告　　焼津市立総合病院　　村松　純一

〈血　液〉

座　長　　聖隷三方原病院　臨床検査部　　後藤　千絵
静岡市立清水病院　検査技術科　　塩川　一樹
JCHO三島総合病院　臨床検査部　　大橋　勝春
沼津市立病院　臨床検査科　　杉澤きよ美

• 全自動血液凝固検査システム STACIA CN10の基礎検討
沼津市立病院　　山口　大智
• フローサイトメーターBD FACSLyricの院内導入に向けての検討
公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　　藤巻　彩香
• JAK2V617F変異を認めた慢性骨髄性白血病の一例
静岡済生会総合病院　　谷渕　将規
• APTT凝固波形解析から抗リン脂質抗体症候群へと導けた男児の一例
静岡済生会総合病院　　柴井　崇史
• 診断に苦慮したIgG-κ型M蛋白血症を伴うCD23陰性CLLの１症例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　　杉山　春香
• t (8; 21) (q22; q22); RUNX1-RUNX1T1を伴う急性骨髄性白血病の芽球形態について
静岡県立静岡がんセンターSRL検査室　　永谷　大輔
• 好塩基球増加を伴う骨髄異形成症候群の１例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　　持田　結稀
• 検査科からの情報により早期発見につながったHairy cell leukemia
磐田市立総合病院　　川井　孝太

〈生　理〉

座　長　　地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　　久住　裕俊
独立行政法人労働者健康安全機構　浜松労災病院　　高田　麻里
静岡医療センター　　渡邊　淑江
地方独立行政法人　静岡市立静岡病院　　桑山　安代
磐田市立総合病院　　鈴木　悠子
医療法人社団宏和会　岡村記念病院　　秋山健太郎
島田市立総合医療センター　　榊原　康平
島田市立総合医療センター　　八木　文悦
財団法人　富士脳障害研究所付属病院　　杉山　　聡
島田市立総合医療センター　　岡野　真弓

• 人間ドック腹部超音波検査における膀胱癌の成績
聖隷予防検診センター　　松島　朱里
• 成人特発性腸重積症の１例
聖隷浜松病院　　宇野　圭祐
• 乳房超音波検査の併用検診が有用であった微細石灰化巣を伴う非浸潤性乳管癌の１例
聖隷予防検診センター　　竹山ゆり花
• 魚骨が原因となった肝膿瘍の１例
公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　　花島志のぶ
• CA19-9高値を呈した腎盂癌の１症例
地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　　久住　裕俊
• 超音波検査にて描出困難だった非浸潤性小葉癌の１例
JA静岡県厚生連　遠州病院　　大西安寿紗
• 乳癌術後10年時に認めた対側乳癌の一例　　静岡済生会総合病院　　関　恵理奈

• 右房内に再発を認めた急性骨髄性白血病の１例
静岡県立静岡がんセンター　野下　昂平
• 経胸壁心エコーでTAVI後早期の血栓弁を指摘できた１例
地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　松永　竜旭
• 重症僧帽弁閉鎖不全症に起因した低圧較差低流量大動脈弁狭窄症の一例
地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　鈴木　裕恵
• 経食道心エコーが診断に有用であった弓部大動脈内血栓の一例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　豊岡有里恵
• 当院の心臓カテーテルチームにおける多職種勉強会の有用性
富士市立中央病院　後藤　理紗
• 左冠動脈主幹部病変時の心電図変化におけるST上昇に関する検討
地方独立行政法人静岡市立静岡病院　杉山　紺菜
• 失神精査のホルター心電図検査をきっかけに虚血性心疾患の診断に寄与できた１症例
島田市立総合医療センター　小川　剛汰
• トレッドミル負荷試験による陽性U波を認めた１例
地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　松田　大輝
• 入院中Ｉ度房室ブロックから高度房室ブロックに移行した一例
藤枝市立総合病院　近藤　季依
• 当センター人間ドックにおいて経験した頻脈性心房細動の一例
社会福祉法人聖隷福祉事業団　聖隷健康診断センター　川口　紅映
• 心電図で急性心膜炎の判断に難渋した症例
社会福祉法人聖隷三方原病院　吉澤　舞
• 当院における簡易睡眠検査と終夜睡眠ポリグラフ検査の比較検討
NTT東日本伊豆病院　後藤　寛子
• 当院人間ドックにおける睡眠時無呼吸症候群簡易検査の結果報告
NTT東日本伊豆病院　武智　留美
• 当院における耳管機能検査導入への取り組み
静岡済生会総合病院　井上　由莉
• DLcoにおけるサンプリング量設定の検討
掛川市袋井市病院企業団　中東遠総合医療センター　鈴木　遥佳

〈病　理〉

座　長　富士市立中央病院　内野　有子
聖隷浜松病院　瀬嵜　翔太
共立蒲原総合病院　田中　裕志
浜松医科大学医学部附属病院　高橋　珠里

• 組織型推定に苦慮した高異型度子宮内膜間質肉腫の２症例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　五十嵐彩香
• 急速に増大を認めた泌尿器領域の小細胞癌の一例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　佐藤　龍哉
• 当院でのROSE導入までの経緯
掛川市袋井市病院企業団　中東遠総合医療センター　平澤　侑也
• がんゲノム遺伝子パネル検査における当院での取り組み
公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　森下　翔太
• 次世代病理検査支援システムの構築
富士市立中央病院　内野　有子

• 次世代病理検査支援システムの構築
富士市立中央病院　渡邉　広明
• 当院病理検査室におけるタスク・シフト／シェアの取り組み
聖隷浜松病院　西村　奏子
• 当院のゲノム診療用病理組織検体取り扱い規程を意識したタスクシフトについて
富士市立中央病院　柏木里沙子
• 抗原賦活化処理を利用したチール・ネルゼン染色の検討
静岡済生会総合病院　黒田　優太
• 全自動HE染色装置　ベンタナHE600の導入前プロセスと導入効果
静岡県立静岡がんセンター　芹澤　佑理

〈遺伝子・染色体〉
座　長　地方独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立総合病院　菅沼　涼平

〈輸　血〉
座　長　静岡県立静岡がんセンター　梁瀬　博文
島田市立総合医療センター　亀山　拓哉

• 当院における出庫製剤の到着確認ルールの変更による輸血関連業務の効率化
焼津市立総合病院　北尾　時輝
• クリオプレシピテート作製プロトコール変更による品質の検討
焼津市立総合病院　増田　順治
• 重症外傷患者対応
公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　藤巻　拓也
• ウラ試験で抗Bが認められなかったO型の１例
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　渡辺　祐希
• 異型適合輸血後に血液型判定で苦慮した一例
地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　柴田　竜也

〈免疫血清〉
座　長　静岡県立総合病院　村越　大輝
聖隷浜松病院　大庭　恵子
藤枝市立総合病院　山田　将臣
静岡県立総合病院　大石　祐

• SARS-CoV-2抗原陽性者における抗原量の経時的推移
JA静岡厚生連　リハビリテーション中伊豆温泉病院　高野　翔太
• 当院におけるSARS-CoV-2検査の実施状況
地方独立行政法人　静岡市立静岡病院　水口　幸祐
• 当院におけるSARS-CoV-2抗原定量検査再検率の実態
JA静岡県厚生連　遠州病院　齋藤　詩織
• 品質保証における検査前プロセスの重要性
地方独立行政法人　静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　高山　拓也
• 健診施設におけるFIB4-indexの活用と今後の有用性
社会福祉法人聖隷福祉事業団　聖隷健康診断センター　山田　佳奈
• 生化学免疫統合型装置の導入に伴う業務効率化について
学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　芦川　直輝
• 生化学・免疫インテグレーション装置（AlinityC2I）を導入して
一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院　澤口　諒

〈微生物〉

座　長　　伊東市民病院　　加藤美由紀

• *Nocardia farcinica*による肺炎および多発性脳膿瘍の一例

沼津市立病院　　小柴　　学

〈チーム医療〉　　座　長　　掛川市袋井市病院企業団　中東遠総合医療センター　　鈴木　秀明

• 当院における肝炎医療コーディネーターの活動報告

学校法人順天堂　順天堂大学医学部附属静岡病院　　田村　咲樹

• 当院における糖尿病療養指導チームの役割

地方独立行政法人静岡県立病院機構　静岡県立総合病院　　大石　　祐

• 当院におけるSMBG指導の取り組み

JA静岡県厚生連　遠州病院　　松本　沙彩

〈教　育〉

座　長　　一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院　　髙島麻倭子

静岡済生会総合病院　　斎藤　彩香

• 臨床検査を終了した既存試料の教育利用に関する病院側の意識調査

静岡医療科学専門大学校　医学検査学科　　畑本　大介

• ファブリー病検査における当院での運用

掛川市袋井市病院企業団　中東遠総合医療センター　　髙坂　仁美

〈管理運営・その他〉

座　長　　社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷三方原病院　　谷髙由利子

静岡済生会総合病院　　深澤　邦俊

公益財団法人浜松医療公社　浜松医療センター　佐々木菜津美

• 当院生理検査室　災害時の動きについて

一般財団法人　芙蓉協会　聖隷沼津病院　　渥美　友貴

• COVID-19クラスターの経験と当院の取り組みについて

公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　　小島　志織

• コロナ禍における当検査科の対応

JA静岡県厚生連　静岡厚生病院　　中村　和也

• 当院における新型コロナウイルス抗原定量検査の判定保留について

公益財団法人浜松市医療公社　浜松医療センター　　増田　京佑

• 当院外来採血室における誤認防止の取り組み

社会医療法人志仁会　三島中央病院　　齋田　英之

• C.S.採血は可能なのか？

静岡済生会総合病院　　鈴木　聖矢

• 職員の創意工夫による採血室の患者待ち時間改善への取り組み

焼津市立総合病院　　松浦　　裕

• 企業別健診集計結果から見えるもの

一般財団法人芙蓉協会　聖隷沼津病院　　川原香名子

静岡県医学検査学会

第８回静岡県医学検査学会

テーマ　求められるAgility　～変化への挑戦～
会　期　令和元年６月８日
会　場　男女共同参画センター「あざれあ」（静岡県静岡市）
学会長　大石　和伸（静岡県立こども病院）
実行委員長　坂根　潤一（静岡県立こども病院）
学会事務局　加茂川暢彦（静岡市立静岡病院）
川口　貴子（静岡赤十字病院）
鈴木　淳二（藤枝市立総合病院）
中島　和浩（市立島田市民病院）

シンポジウム

テーマ　『求められるAgility　～変化への挑戦～』
座　長　大石　和伸（第８回静岡県医学検査学会　学会長）
１．一般・血液・輸血検査　川井　考太（磐田市立総合病院）
２．生化学検査　久住　裕俊（静岡県立総合病院）
３．生理検査　菊池　秀明（静岡赤十字病院）
４．病理検査　本田　勝丈（静岡県立がんセンター）
５．日本臨床衛生検査技師会　滝野　寿（日本臨床衛生検査技師会）

一般演題

第１部　座　長　羽切　政仁（聖隷沼津病院）
斎田　英之（三島中央病院）

１．免疫自動分析機器更新に伴い経験した取り組みについて
大石　祐（静岡県立総合病院）
２．院内導入に向けたプロカルシトニン測定の検討と導入後の動向
佐野加奈江（富士宮市立病院）
３．免疫学的検査項目TSHにおいて非特異反応を示した一例
竹林　史織（浜松医療センター）
４．小児採血の負担軽減
鈴木　悠大（静岡医療科学専門学校）

第２部　座　長　齋藤　晴義（聖隷予防検診センター）
本多　譲（中東遠総合医療センター）

５．結果報告時間調査を活用した患者まち時間短縮に向けた取り組み
井口美菜絵（聖隷浜松病院）
６．がん早期発見への取り組み
加藤　愛菜（静岡医療科学専門大学校）
７．microRNA in situ hybridizationによる胚細胞腫瘍組織型鑑別の検討
井上　卓（静岡県立こども病院）
８．人工知能を活用した婦人科細胞診のスクリーニング自動化に向けた試みと課題
栗田　祐希（浜松医科大学医学部付属病院）

第９回静岡県医学検査学会

テーマ　変革　～臨床検査技師として求められること～
会　期　令和３年６月12日
会　場　男女共同参画センター「あざれあ」（静岡県静岡市）
学会長　髙林　保行（JA静岡厚生連　遠州病院）
実行委員長　中村　考始（浜松医療センター）
学会事務局　齊藤　晴義（聖隷予防検診センター）
直田健太郎（聖隷浜松病院）
武藤　　淳（中東遠総合医療センター）
久留島幸路（磐田市立総合病院）
廣野　裕章（志都呂クリニック）

教育講演

『タスク・シフト／シェアについて』
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会　副会長　　丸田　秀夫

一般演題

第Ⅰ部　　座　長　久留島幸路（磐田市立総合病院）
鈴木　　篤（JA静岡厚生連　静岡厚生病院）

1．当院生理検査室における医療安全のための関わり　～報告未確認防止のために～
簾野　真実（聖隷三方原病院）
2．YouTubeで小学生が憧れる臨床検査技師に
岩崎　恵美（静岡医療科学専門大学校）
3．国際学会発表で経験して伝えたいこと
鈴木　駿輔（静岡県立総合病院）
4．ドセタキセル投与後に偽ペルゲル核異常を認めた１症例
永谷　大輔（静岡県立がんセンターSRL検査室）

第Ⅱ部　　座　長　武藤　　淳（中東遠総合医療センター）
斎田　英之（三島中央病院）

5．美容とのコラボレーションでがん検診の二次受診率向上を目指す
中尾　陽美（静岡医療科学専門大学校）
6．当院健診センターにおける便潜血陽性者とその後
落合　彩貴（三島中央病院）
7．ビオチン過剰摂取における検査値の干渉
柴田　竜也（静岡県立総合病院）
8．当院におけるSARS-CoV-2抗原定量検査の有用性
中山　雄太（JA静岡厚生連　遠州病院）

学術部門研修会等の活動

（平成30年度から令和４年度）

平成30年度

開催日	研修会名	会場
４月21日	平成30年度第１回臨床血液部門研修会	静岡赤十字病院
６月９日	平成30年度第１回生物化学分析部門研修会	静岡県立総合病院
６月23日	平成30年度第１回病理細胞部門研修会	静岡赤十字病院
７月７日	平成30年度第１回臨床生理部門研修会	あざれあ
７月14日	平成30年度第１回微生物部門研修会	三島市民生涯学習セミナー
８月４日	平成30年度第２回臨床血液部門研修会	レイアップ御幸町ビル
８月18日	第１回ニューリーダー研修会	磐田iプラザ
９月１日	平成30年度第２回生物化学分析部門研修会	静岡県立総合病院
９月15日	平成30年度第１回輸血・細胞治療部門研修会	静岡県立総合病院
９月21日	静岡県標準化事業第20回東部地区意見交換会	三島商工会議所
９月29日	平成30年度第３回臨床血液部門研修会	静岡市立静岡病院
９月29日	平成30年度第１回臨床一般部門研修会	静岡産業経済会館
10月６日	平成30年度第１回染色遺伝子部門研修会	静岡赤十字病院
10月20日	超音波検査士認定試験対策セミナー	静岡県教育会館すんぷらーざ
11月３日	平成30年度第２回臨床一般部門研修会	静岡産業経済会館
12月８日	第２回ニューリーダー研修会	あざれあ
12月９日	平成30年度第２回輸血・細胞治療部門研修会（実技）	静岡県赤十字血液センター静岡事業所
12月９日	平成30年度第３回臨床生理部門研修会	静岡県教育会館すんぷらーざ
12月９日	第３回ニューリーダー研修会	三島市民文化会館
１月12～13日	多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会	あざれあ
２月８日	静岡県標準化事業第21回東部地区意見交換会	三島商工会議所
２月16日	平成30年度第３回病理細胞部門研修会	静岡赤十字病院
２月16日	平成30年度第３回臨床一般部門研修会	静岡市産業交流センター
２月16日	平成30年度第２回臨床微生物部門研修会	ふしみや貸し会議室905号室
２月24日	第18回静岡血液フォーラム	レイアップ御幸町ビル
２月24日	平成30年度第４回臨床生理部門研修会	静岡市産学交流センター
３月２日	平成30年度第２回染色遺伝子部門研修会	静岡赤十字病院

平成31年・令和元年度

開催日	研修会名	会場
４月27日	平成31年度第１回輸血・細胞治療部門研修会	あざれあ
６月15日	令和元年度第１回臨床生理部門研修会	浜松市地域情報セミナー
６月22日	令和元年度第１回臨床血液部門研修会	静岡市立静岡病院
６月22日	令和元年度第１回病理細胞部門研修会	静岡赤十字病院
６月22日	令和元年度第１回臨床一般部門研修会	レイアップ御幸町ビル
９月14日	令和元年度第２回臨床生理部門研修会	静岡産業経済会館
９月14日	令和元年度第２回臨床血液部門研修会	静岡市立静岡病院
９月27日	静岡県標準化事業第22回東部地区意見交換会	三島商工会議所
10月26～27日	第35回日臨技中部圏支部臨床血液部門研修会	つま恋リゾート彩の郷
11月２日	令和元年度第１回染色遺伝子部門研修会	静岡赤十字病院
11月２日	令和元年度第２回臨床一般部門研修会	あざれあ
11月16日	令和元年度第２回生物化学分析部門研修会	静岡県立総合病院

11月24日	ニューリーダー育成研修会	あざれあ
12月14～15日	ベッドサイド実践講習会	プラサヴェルデ
12月21日	令和元年度第3回臨床生理部門研修会	グランシップ
12月21日	令和元年度第1回臨床微生物部門研修会	浜松医科大学
1月26日	2019年度初級・職能開発講習会	磐田市立総合病院
2月1日	令和元年度第2回病理細胞部門研修会	静岡赤十字病院
2月1日	令和元年度第3回臨床一般部門研修会	静岡産業経済会館
2月2日	令和元年度第3回輸血・細胞治療部門研修会	静岡県赤十字血液センター静岡事業所
2月2日	令和元年度臨床生理部門研修会	プラサヴェルデ
2月2日	第20回静岡血液フォーラム	グランシップ
2月22日	令和元年度第2回染色遺伝子部門研修会	静岡赤十字病院

令和2年度

開催日	研修会名	会場
11月14日	Web型研修会作法講座	Web開催
11月28日	令和2年度第1回臨床微生物部門研修会	Web開催
2月7日	令和2年度第1回臨床血液部門研修会	Web開催
2月20日	令和2年度第1回臨床一般部門研修会	Web開催
2月20日	令和2年度第1回臨床生理部門研修会第1～2講演	Web開催
2月21日	令和2年度第1回臨床生理部門研修会第3～4講演	Web開催
2月27日	令和2年度第1回生物化学分析部門研修会	Web開催
2月27日	令和2年度病理細胞部門・染色遺伝子部門合同研修会	Web開催

令和3年度

開催日	研修会名	会場
5月1日	令和3年度第1回輸血・細胞治療部門研修会	Web開催
6月26日	令和3年度第1回生物化学分析部門研修会	Web開催
7月10日	令和3年度第1回臨床生理部門研修会	Web開催
9月4日	令和3年度第1回臨床一般部門研修会	Web開催
9月11日	令和3年度第1回臨床微生物部門研修会	Web開催
9月11日	令和3年度第1回病理細胞部門・染色遺伝子部門合同研修会	Web開催
9月18日	令和3年度第1回臨床血液部門研修会	Web開催
10月16日	令和3年度第1回病理細胞部門研修会	Web開催
10月23日	令和3年度第1回臨床生理部門研修会	Web開催
12月4日	令和3年度第2回臨床一般部門研修会	Web開催
1月29日	令和3年度第3回臨床生理部門研修会	Web開催
2月5日	令和3年度第1回染色遺伝子部門研修会	Web開催
2月6日	第21回静岡血液フォーラム	Web開催
2月11日	令和3年度第2回臨床生理部門Web型研修会	Web開催
2月19日	令和3年度第2回生物化学分析部門研修会	Web開催
2月27日	令和3年度第2回病理細胞部門Web型研修会	Web開催

令和4年度

開催日	研修会名	会場
6月25日	令和4年度第1回臨床生理部門研修会	Web開催
7月3日	令和4年度第1回輸血・細胞治療部門研修会	Web開催
8月6日	令和4年度第1回臨床血液部門研修会	Web開催
8月20日	令和4年度第2回臨床生理部門研修会	Web開催

8月27日	令和4年度第1回生物化学分析部門研修会	Web開催
9月3日	令和4年度第1回病理細胞部門研修会	Web開催
9月10日	令和4年度第1回臨床一般部門研修会	Web開催
10月8日	日臨技中部圏支部医学検査学会（第60回）	プラサヴェルデ
10月22日	令和4年度第3回臨床生理部門研修会	Web開催
11月19日	令和4年度第2回臨床血液部門研修会	静岡市立静岡病院
12月10日	令和4年度第1回染色遺伝子部門研修会	Web開催
1月14日	令和4年度第1回臨床微生物部門研修会	Web開催
1月28日	令和4年度第2回病理細胞部門研修会	Web開催
2月4日	令和4年度第4回臨床生理部門研修会	Web開催
2月5日	令和4年度第2回臨床一般部門研修会	Web開催
2月11日	令和4年度第2回生物化学分析部門研修会	静岡県立総合病院
2月12日	第22回静岡県立総合病院	Web開催
2月18日	令和4年度第2回染色遺伝子部門研修会	Web開催

特 別 寄 稿

次世代を担う臨床検査技師に期待すること

静岡県臨床衛生検査技師会
名誉会員　横 地 常 広

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会の創立70周年にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我々を取り巻く社会環境、医療環境は大きく変わろうとしています。国立社会保障・人口問題研究所のデータでは、2060年に向けて、毎年50万人の人口が減少し、2070年には日本の総人口は１億人を切ると推計されています。また、少子高齢化には歯止めがきかず、2040年には65歳以上の人口が総人口の35％を占め、19歳以下の人口は総人口の15％まで落ち込むと言われています。医療資源を必要とする高齢者が増えること、先駆的な高額医療が普及することで医療費の総額は、毎年6,500億円程度増加すると試算されています。医療費の増加は、直接国民負担につながることから行政府（財務省、厚生労働省など）は医療費抑制に向けた施策を今後も継続することとなり、病院経営は一層厳しい状況になることが想定されます。更に、少子化に伴い就労人口（働き手）が減少し、次世代を担う臨床検査技師の確保も問題となってきます。

一方、我々の働く環境も大きく変わろうとしています。目覚ましい技術革新により、自動化、ロボット化、システム化が進み、従来から培ってきた「信頼できる検査データを臨床のニーズに合わせて迅速に提供する体制の構築」に留まることなく、医師をはじめとする医療関係職種と連携して、より良い医療を患者に提供するために、検査室の枠を超えて、検査の専門家としてメディカルスタッフの一翼を担うことが求められています。臨床検査技師の根幹である「品質保証された検査データ」を担保するための知識・技術の研鑽に努め、信頼されるスタッフを目指し、検査の専門分野のみに精通するのではなく、患者の治療、療育に関する幅広い知識を身に付けることにより、医療の最前線（患者のそばで……）で検査の専門家として、臨床検査技師の「新たな働き方」が実践できると思います。

医療機関における「新たな検査室のあり方」を実現するためには、「意図的な自己否定」日々の仕事（ルーチンワーク）で良いと思っても、あえて「これで良いのか？」問題点がないか常に自問自答すること。「自己能力への謙虚さ」自分には、まだまだ劣るところがあり、更にいろんなことを吸収して、少しでも仕事ができるようになりたいと常に思っていること。など自身の意識改革に努めることが重要であり、常に傾聴に努め、職場内のスタッフ間で情報共有できる環境を整えることが重要です。今後、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増すと考えられます。「新たな検査室のあり方」を模索する上で、安易な人員増は病院経営を更に圧迫することにつながる可能性があります。まず現状業務の洗い出しと業務の効率化を図ることが重要です。先駆的な施設の単なる模倣ではなく、自施設で抱える課題に向き合い、スタッフひとり一人が「自分事」として捉え、自ら考え、自らの意見を持ち、職場内で意見交換できる土壌を作ることにより、課題に向かって「一歩踏み出す」ことができると思います。

「座右の銘」

【場を人が作り、場が人を育て、場の結束がことを成す】

いかに優秀な人でも独りでなせる事はたかが知れています。皆が力を合わせるためには、多方面のベクトル（意見）をぶつける「場」（環境）を整えることがまずは肝要です。その「場」で意見交換することで人が育ち、事を成し遂げることができる。そしてうまく事を成し遂げた時にはリーダーではなくスタッフを評価する。それが新たなモチベーションになり、今まで以上に組織が活性化していきます。

最後に、会員である「臨床検査技師」が10年後、20年後の未来においても、安心して仕事が続けられる環境を整えるために、ご尽力いただきたいと思います。

精度管理調査の変遷と今後の活動について

静岡県臨床検査精度管理委員会　統括　清　水　憲　雄

静臨技の精度管理事業として、静岡県臨床検査精度管理調査を静岡県医師会、静岡県健康福祉部医療局医療政策課との連携により開催して、今年で第40回を迎えました。この調査は、全国的に行われる大規模精度管理調査を補完することを目的としており、特に地域サーベイの特色を生かして生試料を利用することでより実践的な調査を心掛けています。

私自身としては、平成16年度調査から血液部門の精度管理実務委員を拝命いただくことから始まり、前委員長であられる菅野剛史先生や現委員長の田内一民先生ご指導の下、現在まで事業運営に関わらせていただきました。その間、登録衛生検査所の立ち入り調査を行う精度管理専門委員や静臨技理事なども務めさせていただき、これらの体験を通じて学んだことが、本職である市立病院の臨床検査部門運営にも役立てることができたと考えております。

精度管理調査の変遷ということでは、平成24年度調査までは、参加施設より紙ベースで報告されたデータを手作業で集計し報告していましたが、平成25年以降、日臨技の精度管理事業システム（JAMTQC）を使用して調査を行っており、より詳細な分析ならびに委員の集計作業、日臨技品質保証施設認証制度申請の負担軽減につながったと考えます。

また、令和元年（2019年）までは、静岡県からの委託事業として、静岡県医師会主導のもと静臨技が協力する形で静岡県臨床検査精度管理調査が実施されてきましたが、実務はほぼ静臨技中心で行っていたことから、令和２年（2020年）から、静臨技が県から直接委託を受けて事業を主導することになりました。

しかし、事業移行した令和２年度には、新型コロナウイルスの拡大が始まり、収束が見えない状況において、当会における研修会活動は休止状態になりました。例年通り、静岡県男女共同参画センターあざれあにて12月第２日曜日に開催を予定してしていた調査報告会も、感染対策として参加者を会場の収容人数の半分以下、座席を指定して開催することを計画しましたが、結局は地域の感染状況を鑑み、急遽翌年１月下旬にWebにて開催することになりました。Web開催は初めての経験で、参加人数も制限された開催となりましたが、羽切学術部長や各精度管理委員の皆様のご尽力により、盛会のうちに終えることができました。その際に会員から寄せられた意見なども踏まえ、翌年の令和３年度調査からは、Web上でのオンデマンド配信とし、現在の報告会の開催形態が確立しました。

精度管理調査は毎年、時代の変化に応じて問題点を改善しながら進化していくものです。調査内容も毎年実施し良好な結果が得られているかどうかを確認すべき調査項目、今後の精度向上に必要な調査があります。

現在、調査項目に含まれていない尿沈渣を含む尿一般検査、今後ゲノム医療の実用化に関連しての遺伝子検査などの扱いについて、今後、各施設からのご意見をできるだけ反映させ、改善を図りたいと思います。

未来に向けて事業を継続していくためには、委員の世代交代も重要な課題となります。精度管理委員の選出は、現職委員が後継者を探すようになっている傾向もあり、世代交代が進まない現状が見られますが、各地区の技師長クラスで構成される支部会で協議、推薦いただければ、それをきっかけに未来の技師会を担っていく人材の発掘にもつながるものと思いますので是非ともお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、精度管理事業の運営にあたり、ご協力いただいている県医師会、県健康福祉部、静臨技理事会、各機器・試薬メーカー、および各部門の委員、ご高閲の先生方に心から感謝申し上げます。

臨床検査技師のタスク・シフト／シェアの取り組みや今後の展開について

磐田市立総合病院　臨床検査技術科　大　井　直　樹

一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会（静臨技）の創立70周年にあたり心よりお慶び申し上げます。

私はこれまで静臨技臨床検査総合部門の部門員・部門長として、「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」、「職能向上のための臨床検査技師育成講習会（ベッドサイド研修会）」、「認知症対応力向上講習会」、「地域ニューリーダー育成研修会」、「初級・職能開発講習会」、そして現在は「タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」、このようなチーム医療への参画や人材育成に関する数多くの事業に携わらせていただきました。

タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会は令和４年度から静岡県での開催が始まり２年間で計14回開催し、多くの会員の皆様に受講していただいています。また、令和４年10月８日・９日に沼津市で開催された第60回中部圏支部医学検査学会「Go to the NEXT ONE!　～ふじのくにに集い　今と未来を考える～」では、タスク・シフト／シェアの推進には新たな環境変化に対応するための「個人の意識改革」、医師をはじめとする他職種からの信頼を得るための「教育体制の確立」、そして、新たな業務参入するための検査室の「余力の捻出」が必要であると考え、すでに先進的に取り組んでいる施設の取り組みを知っていただき、今後の推進のきっかけにしたいという思いから、臨床検査総合部門シンポジウム「臨床検査技師に対するタスク・シフト／シェアの推進　～まったなし！先駆者から未来を考える～」を企画し、活発な議論の場となりました。

臨床検査の分野では更なる自動化の促進や人工知能（AI）技術の導入により、臨床検査技師の将来を不安視する声があります。臨床検査技師の現状に満足し現状維持を続けているとその不安視する声が現実味を帯びてしまいます。タスク・シフト／シェアは2024年４月から適用される医師の時間外労働規制に向けて進められていますが、我々臨床検査技師が将来の生き残りをかけた業務拡大としてのチャンスでもあります。我々臨床検査技師は、医療の進化や社会の変化に柔軟かつ迅速に対応することが求められおり、今後は従来の臨床検査技師業務に磨きをかけるとともに、タスク・シフト／シェアの促進をきっかけに、より患者の近くで医師や看護師をはじめとする多職種と協働できる医療人を目指す必要があると考えています。臨床検査の専門性を高めるとともに、医療人としての人格形成、マネージメント能力やコミュニケーション能力の育成が重要であると思います。そのためにも静臨技として現状の専門分野の研修会のみならず、会員の意識改革が図れるよう、将来目指すべき臨床検査技師像の共有やディスカッション等ができる場を提供する必要があると考えています。

私自身としても医療現場で必要とされる臨床検査技師であり続けられるよう、新しいチャレンジをしたいと思っています。10年後、20年後の臨床検査技師が現状よりも輝いていられるよう、積極的に情報発信や後輩の育成に努めていきたいと思います。

臨床検査技師には無限の可能性があると信じています。共にかんばりましょう。

4 表　彰

厚生労働大臣表彰受章者

於　日本臨床衛生検査技師会創立65周年・法人化55周年記念式典　霞山会館

平成29年6月23日

三　宅　和　秀（静岡厚生連清水厚生病院）
伊　藤　喜　章（静岡厚生連遠州病院）

静岡県知事表彰受章者

於　静岡県臨床衛生検査技師会創立65周年記念式典　静岡グランドホテル中島屋

平成30年6月2日

豊　田　次　郎（榛原医師会臨床検査センター）

中部地区臨床衛生検査技師会・日本臨床衛生検査技師会中部圏支部表彰

第60回　日臨技中部圏支部検査医学会　　令和4年度10月8日授与

学術奨励賞　　松　永　竜　旭（静岡県立総合病院）
学術奨励賞　　鈴　木　健　太（聖隷浜松病院）

静岡県臨床衛生検査技師会表彰

功労者表彰受章者

平成30年度

杉　澤　きよ美（沼津市立病院）　　栗　田　　昭（磐田市立総合病院）

令和2年度

伊　藤　喜　章（自宅会員）

令和4年度

藤　原　　誠（伊豆赤十字病院）　　大　石　和　伸（静岡県立総合病院）
春　口　公　哉（磐田市立総合病院）　　市　川　佐知子（静岡厚生連　遠州病院）

学術業績者表彰受章者

第15回サクラ病理技術賞　受賞者（2022年度）

於　東京・ベルサール東京日本橋　　令和4年7月29日（土）

坂　根　潤　一（静岡県立総合病院　検査技術・臨床工学室　病理検査室）

永年職務奨励表彰受章者

平成30年度　表彰受章者　34名　　令和元年度　表彰受章者　35名
令和２年度　表彰受章者　45名　　令和３年度　表彰受章者　46名
令和４年度　表彰受章者　26名
（※　現在、当会では永年職務奨励表彰受章者氏名掲載を控えておりますのでご了承下さい

学術奨励者表彰受章者

令和元年度　わかふじ奨励賞

大　石　　祐（静岡県立総合病院）　佐　野　加奈江（富士宮市立病院）
竹　林　史　織（浜松医療センター）　井　口　美菜絵（浜松聖隷病院）
井　上　　卓（静岡県立こども病院）　栗　田　佑　希（浜松医科大学医学部附属病院）

令和３年度　わかふじ奨励賞

簾　野　真　実（聖隷三方原病院）　鈴　木　駿　輔（静岡県立総合病院）
落　合　彩　貴（三島中央病院）　永　谷　大　輔（静岡県立がんセンターSRL検査室）
柴　田　竜　也（静岡県立総合病院）　中　山　雄　太（JA静岡厚生連　遠州病院）

特別表彰受章者

特別賞

於　静岡県臨床衛生検査技師会創立65周年記念式典　静岡グランドホテル中島屋
平成30年６月２日

山　口　浩　司（聖隷三方原病院）

会長賞

於　静岡県臨床衛生検査技師会創立65周年記念式典　静岡グランドホテル中島屋
平成30年６月２日

三　宅　和　秀（静岡厚生連　清水厚生病院）
薗　田　明　広（静岡県立総合病院）
市　川　千津子（静岡済生会総合病院）

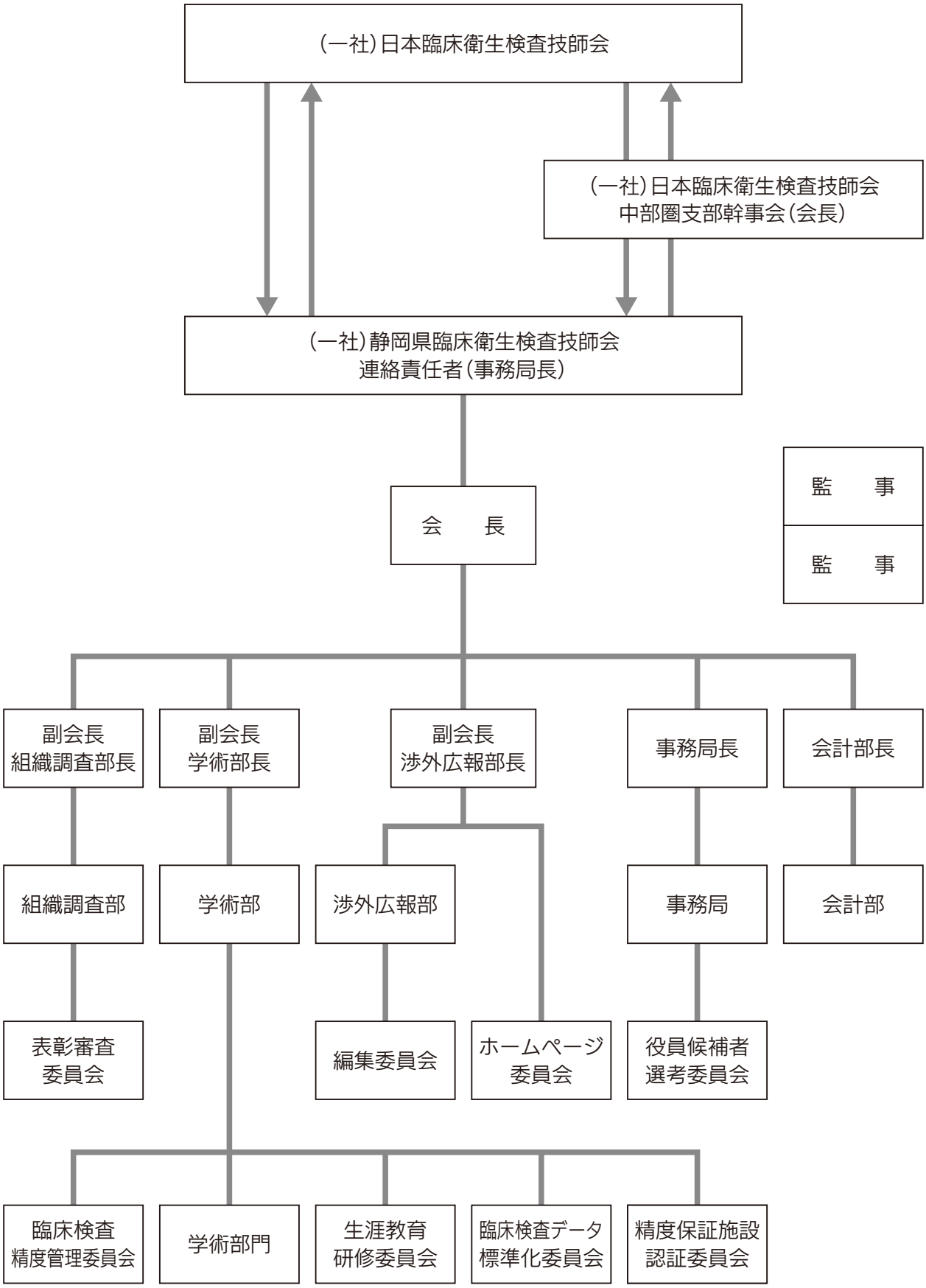
5 静岡県臨床衛生検査技師会 資料

平成30・31年度 役員一覧		
会長	伊藤喜章	静岡厚生連遠州病院
副会長	須田達也	裾野赤十字病院
	大石和伸	静岡県立こども病院
	清水憲雄	磐田市立総合病院
常務理事	羽切政仁	聖隷沼津病院
	坂根潤一	静岡県立こども病院
	齋藤晴義	聖隷予防検診センター
理事	石井浩崇	NTT東日本伊豆病院
	勝又隆子	富士宮市立病院
	齋田英之	三島中央病院
	加茂川暢彦	静岡市立静岡病院
	鈴木淳二	藤枝市民病院
	川口貴子	静岡赤十字病院
	直田健太郎	聖隷浜松病院
	佐原卓夫	浜松医療センター
	本多譲	中東遠総合医療センター
事務局長	榛葉智之	公立森町病院
会計部長	鈴木真紀子	静岡医療科学専門大学校
監事	藤原誠	伊豆赤十字病院
	中島和浩	島田市民病院
顧問	紀平幸一	静岡医師会 会長
名誉会員	川越功	
	泉正和	

令和2・3年度 役員一覧		
会長	大石和伸	静岡県立こども病院
副会長	深澤邦俊	静岡済生会総合病院
	髙林保行	静岡厚生連遠州病院
	羽切政仁	聖隷沼津病院
常務理事	須田達也	裾野赤十字病院
	鈴木篤	静岡厚生連静岡厚生病院
	中村孝始	浜松医療センター
理事	石井浩崇	NTT東日本伊豆病院
	齋田英之	三島中央病院
	髙橋詩帆	静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院
	加茂川暢彦	静岡市立静岡病院
	松浦裕	焼津市立総合病院
	前澤圭亮	静岡赤十字病院
	直田健太郎	聖隷浜松病院
	武藤淳	中東遠総合医療センター
	久留島幸路	磐田市立総合病院
事務局長	坂根潤一	静岡県立こども病院
会計部長	齋藤晴義	聖隷予防検診センター
監事	藤原誠	伊豆赤十字病院
	廣野裕章	志都呂クリニック
顧問	紀平幸一	静岡医師会 会長
名誉会員	川越功	
	泉正和	

令和4・5年度 役員一覧		
会長	髙林保行	静岡厚生連遠州病院
副会長	深澤邦俊	静岡済生会総合病院
	鈴木秀明	中東遠総合医療センター
	羽切政仁	聖隷沼津病院
常務理事	髙橋詩帆	静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院
	原宣紀	静岡厚生連清水厚生病院
	山下計太	浜松医科大学医学部付属病院
理事	石井浩崇	NTT東日本伊豆病院
	齋田英之	三島中央病院
	岩崎佐知子	富士市立中央病院
	加茂川暢彦	静岡市立静岡病院
	松浦裕	焼津市立総合病院
	前澤圭亮	静岡赤十字病院
	直田健太郎	聖隷浜松病院
	平澤英典	浜松医療センター
	久留島幸路	磐田市立総合病院
事務局長	坂根潤一	静岡県立総合病院
会計部長	齋藤晴義	聖隷予防検診センター
監事	須田達也	裾野赤十字病院
	鈴木篤	静岡厚生連静岡厚生病院
顧問	紀平幸一	静岡医師会 会長
名誉会員	川越功	
	泉正和	
	横地常広	

静岡県臨床衛生検査技師会組織図　（令和５年度）



編集後記

本誌編集中に能登半島地震が発生いたしました。

被災された方々にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

静岡県臨床衛生検査技師会が誕生し70周年を迎えることが出来ました。

本誌には65周年からの技師会の活動をまとめました。

新型コロナウイルス感染症蔓延により多くの活動が制限される中、理事を中心に活動してきた記録です。

Webで行われた県学会、総会、ハイブリッド開催となった中部圏支部学会など5年前には想像もしていなかったことの連続でした。

静臨技が今後何十年も続いていく中で、こんな時もあったと思い返される冊子になってもらえれば幸いです。

日臨技、中部圏支部、静岡県、静岡県医師会とともに歩んできた70年、この先、より強い結びつきが作られ、より発展していくことを期待しています。

おわりに、記念誌制作にご支援、ご協力を賜りました多くの方々に心より感謝申し上げますとともに、今後、臨床検査技師の皆様および技師会の発展を心より祈念いたします。

編集統括責任者　深澤　邦俊

編集担当者

編集統括責任者	深澤　邦俊	静岡済生会総合病院
編集担当者	山下　計太	浜松医科大学医学部附属病院
	松浦　　裕	焼津市立総合病院
	石井　浩崇	NTT東日本伊豆病院
	磯部明日香	静臨技事務所

◆

令和6年3月吉日　印刷
令和6年4月吉日　発行

発行者　一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会
会長　髙林　保行

発　行　〒422−8062　静岡市駿河区稲川1−1−15
ヴィラセーユー稲川207
一般社団法人静岡県臨床衛生検査技師会
電話　054 − 287 − 6337

印　刷　みどり美術印刷株式会社

JAMT

SHIZUOKA